東京都三多摩公立博物館協議会報

ミュージアム　多摩

創刊号

発行：昭和54年12月1日

創刊にあたりまして

東京都三多摩公立博物館協議会
会長　朝　倉　雅　彦

このたび、東京都三多摩公立博物館協議会の機関紙『ミュージアム多摩』が創刊される運びとなりましたことは、まことに喜びとするところであります。

かえりみますと、この会は、八王子市郷土資料館々長の小泉恵一さんの呼びかけによって、昭和49年8月16日に同館において、多摩地区にある青梅、東村山、調布、八王子、町田、府中の市立博物館の館長会として結成されたのがはじまりであります。

当時の申し合せ事項としては、この会が順調に発展していくために、①かたぐるしいものとならないように、規約もつくらず、代表もおかない。②会の実力に応じて、無理のない活動を積み重ねて行く。③館長だけでなく、全職員の会にもって行く。④会は、隔月に各館の持廻りで開く。⑤事業は、各館の情報や作成した資料の交換、展示資料の相互貸借に関することなどを行うということでありました。

この会は、和かな中に円滑に進展してまいりましたが、昭和53年7月15日に、町田市立博物館において「東京都三多摩公立博物館協議会」として発展的に新発足し、会則を制定いたしました。そして、初代会長として、全員の推せんで前記の小泉恵一さんが就任されました。事業は、別掲の会則のとおりであります。また、この時、奥多摩、福生、瑞穂の各館が加入され、最近には羽村町が会員となっています。

この会の願いは、多摩地区の全域に博物館が設置され、活動され、そして、これらの全館で会の運営される日が一日も早く訪れることであります。

近年に至りまして、「地方の時代」とか「地域文化の創造」とかいわれるようになってきました。本来、地域博物館は地域文化の拠点であります。いいかえれば、地域博物館がそのあるべき姿まで充実することが地域文化の発展の基本的で重要な要素といえます。さらに述べますと、一つのまちの文化は、そのまちだけで生まれ育ってきたものでなく、まちまちのお互の交流の中で発展してきたわけであります。

こういうことから、少くとも多摩地区にある博物館が、互に手を結び合っていってこそ、より広く、より深い、それぞれの博物館の綿密な計画と充実した活動が可能となり、それが、それぞれのまちの地域文化の創造と発展につながることになります。

こういうわけで、この三博協機関紙が、多摩地区の博物館を結ぶ絆となり、さらには行政各面をはじめ、住民のかたがたの博物館へのより深いご理解と博物館の普及に、いささかなりともお役に立つものとなれば何よりの幸いであります。

この機関紙は、三博協の盛り上りによって誕生いたしました。そして、将来にわたって、ますます進展するものとなるように望んでやみません。関係各位のご指導とご支援を切にお願いいたしまして、創刊のご挨拶とさせていただきます。（府中市立郷土館長）

東京都三多摩公立博物館協議会加入館名簿（昭和54年11月現在）

館名	代表者名	所在地	電話番号
青梅市郷土博物館	稲葉松三郎	〒198　青梅市駒木町1丁目684番地	(0428)23—6859
奥多摩郷土資料館	奥平勝蔵	〒198-02西多摩郡奥多摩町原5番地	(04288) 6—2731
調布市郷土博物館	狩野久光	〒182　調布市小島町3丁目26番地2号	(0424)85—1164
八王子市郷土資料館	小泉恵一	〒192　八王子市上野町70番地	(0426)22—8939
羽村町教育委員会	並木正雄	〒190-11西多摩郡羽村町緑ヶ丘5丁目2番地	(0425)55—1111
東村山市立郷土館	小山博	〒189　東村山市諏訪町1丁目2番地7号	(0423)91—5353
府中市立郷土館	朝倉雅彦	〒183　府中市宮町3丁目1番地	(0423)64—4111
福生市教委会社会教育課	小野光朗	〒197　福生市北田園2丁目9番地	(0425)52—5511
町田市立博物館	千沢楨治	〒194　町田市本町田3562番地	(0427)26—1531
瑞穂町郷土資料館	藤森宏門	〒190-12西多摩郡瑞穂町石畑1962番地	(0425)57—5614

【博物館活動のお知らせ】

展示会

館　名	展示会名	期　間	内　　容
青梅市郷土博物館	杣山の板碑展	5／1～55・3/31	市内遺存の板碑、拓本類約80点の展示。
奥多摩郷土資料館	小河内の郷土芸能	53・4～55・12	原の獅子舞、川野の車人形、小留浦の花神楽など。
	奥多摩の民俗	53・4～	国指定重要民俗文化財・山村生活用具の展示。
	郷土学習室	53・4～	動物の剝製、町内出土品の展示。
調布市郷土博物館	調布の原始・古代―近年の発掘から―	9／25～11／30	最近、調布市内で発掘された遺跡の紹介や出土遺物の展示を行う。
	紙とくらし展	54・12～55・2	生活にきりはなせない紙について、主として印刷技術の発達と紙の用途、紙製品等の観点から資料を展示。
	おじいちゃんの時代展・Ⅳ	55・2～55・5	小中学生の郷土学習の参考として、明治から大正期の衣・食・住、生産生業、社会生活等の資料を展示。
八王子市郷土資料館	八王子・土師器展	10／16～12／2	市内の中田遺跡出土の土師器を中心として、6世紀から9世紀にかけての古代のムラの暮らしを探る。
	人物コーナー「松原庵星布」	55・2～	市内出身の俳人で、江戸時代に活躍し現代の地域の俳句にも影響を残している星布について紹介する。
府中市立郷土館	第15回市民芸術文化祭参加各種展示会	10／3～11／25	刀剣展・版画展・日本画展・工芸展等8種の市民作品展示会。
	第3回武蔵国府展	55・2～5／2	武蔵国府関連遺跡発掘状況報告展。
町田市立博物館	近代日本創作版画10人展	10／23～11／30	日本の版画芸術の新しい流れである創作版画をとりあげ、川上澄生ら代表的な画家10人の作品を展示。
	町田の古墳文化展	12／8～55・2/7	市内の発掘調査が行われた各遺跡を通して、町田の古墳文化について理解していただく。町田の民具も展示。
	「みの・かさ・ばんどり展」―生活の美―	55・2/26～4／10	みの・かさは、日本各地で、ごく日常的に使われていたもので、地域ごとに様々な意匠が施されている。ばんどりは、山形県庄内地方の運搬具。美的視点からみる。

教育普及活動

館　名	種別	題　名	期日	講　師	備　考
青梅市郷土博物館	見　学　会	市内文化財めぐり	55・3	未　定	於市内各所　バス2台　100名予定
奥多摩郷土資料館	観　察　会	植物観察会	10／14	高水典夫	於奥多摩湖畔
調布市郷土博物館	講　演　会	紙とくらし	12／初	未　定	於博物館又は児童館
	映　写　会	紙すき―軍道紙―	〃		講演会と共に実施
	体験学習会	紙　細　工	12／中	未　定	於博物館又は児童館
		注連縄作り	12／下	川手武雄（予定）	〃
		ぞうり作り	55・2	斉藤源造（予定）	〃
八王子市郷土資料館	講　演　会	古代集落論をめぐる二・三の問題	11／11	岩崎卓也（筑波大学助教授）	於資料館　特別展記念講演会
府中市立郷土館	講　演　会	武蔵国府関連遺跡発掘調査報告	55・3	未　定	会場未定
	観　察　会	冬の植物と昆虫	55・2	自然調査団調査員	於浅間山
	〃	多摩川の冬鳥	〃	〃	於多摩川
	史談会例会	多摩の俳句他	月1回	外部講師、会員	12月は休会
町田市立博物館	講　　座	縄文土器の文様について	55・2～3	博物館学芸員	於博物館

	講　演　会	浮世絵講座	55・2～3	博物館学芸員	於博物館
		土曜講座（民俗）	54・7～8	〃	〃
		市民考古学入門講座（Ⅳ）	〃	〃	市内の遺跡見学会
		町田の古墳文化について（仮称）	55・3	未　定	於博物館講堂
		みの・かさ・ばんどりについて（仮称）	55・1～2	〃	〃
瑞穂町郷土資料館	見　学　会	博物館のつどい	11／22	博物館学芸員	会場未定　2回開催
		町の史跡めぐり	随　時	資料館係員	町内徒歩一巡　各種団体の申込みを受ける。

出版物

館　名	書　名	定価	部数	内　容
青梅市郷土博物館	文化財総合調査報告書(5)	未定	1,500	市内遺存板碑1400基の調査報告書
奥多摩郷土資料館	小河内ダムと湖底の村	50	1,500	水道とダムによる移転のようす
	奥多摩の民俗	350	650	資料館展示概要
	奥多摩町の民俗・町誌資料(1)	未定	200	奥多摩町内の石仏・講・年中行事
調布市郷土博物館	紙とくらし展	無料	1,000	「紙とくらし展」のパンフレット
	郷土博物館だより№5	〃	1,000	「紙とくらし展」の内容紹介等
	郷土博物館資料目録(5)	〃	500	昭和54年1月～12月までの資料集計
八王子市郷土資料館	八王子の土師器（図録）	600	500	「八王子・土師器展」図録。B5版60ページ
	石川日記（二）	500	200	農耕のことなどが記された近世の日記
府中市立郷土館	第9次自然調査報告書	未定	500	年次調査報告書。在庫第5～8次
	郷土館紀要第6号	〃	600	本宿村の成立と変遷他。在庫第1～5号
	郷土資料集第3集	〃	800	府中の石造遺物資料集。在庫第1～2集
	武蔵府中郷土かるた	500	3,500	郷土学習用資料として児童に配布。一部頒布
	郷土館だより№45～46	無料	3,000	各1500部発行。研究小論文、資料紹介等
	郷土かるためぐり案内図	〃	3,500	かるた項目の関係地に立つ標識めぐりの案内図
	府中市史談会誌№6	未定	500	会員配布他。会員の研究を登載
	府中市史上・中・下巻	5,800	900	再版
	府中市史総索引	1,600	1,000	府中市史上中下巻の総索引
町田市立博物館	鈴木満回顧展（図録）	300	1,000	「鈴木満回顧展」図録。油絵を中心とした絵画
	和時計展（図録）	500	1,000	「和時計展」図録
	博物館だより11	無料	1,500	展覧会の案内、収蔵品の紹介、友の会だより等
	博物館年報（昭和53年度）	〃	500	博物館の1年間の活動報告
瑞穂町郷土資料館	瑞穂町史	6,000		大古より現代に至る瑞穂町の全貌。残部少
	瑞穂小史	1,500		町史の姉妹編。普及版。残部少
	瑞穂町の民俗	300	1,000	町の1年間の行事の解説
	瑞穂町の文化財	200	1,000	町指定文化遺跡、遺物の説明
	石造文化財	500		石造文化財の説明書。残部少

調査研究

館　名	題　名	期　間	内　容	発表誌書名
青梅市郷土博物館	霞台遺跡発掘調査	7／23～8／23	弥生・古墳・奈良時代の遺跡調査	55年度紀要
府中市立郷土館	府中市内の仏像調査	54・7～3	市内約40ヵ寺の仏像悉皆調査	
瑞穂町郷土資料館	瑞穂町の地名について	53～54	変貌する町の小字について研究	

文化財の動向

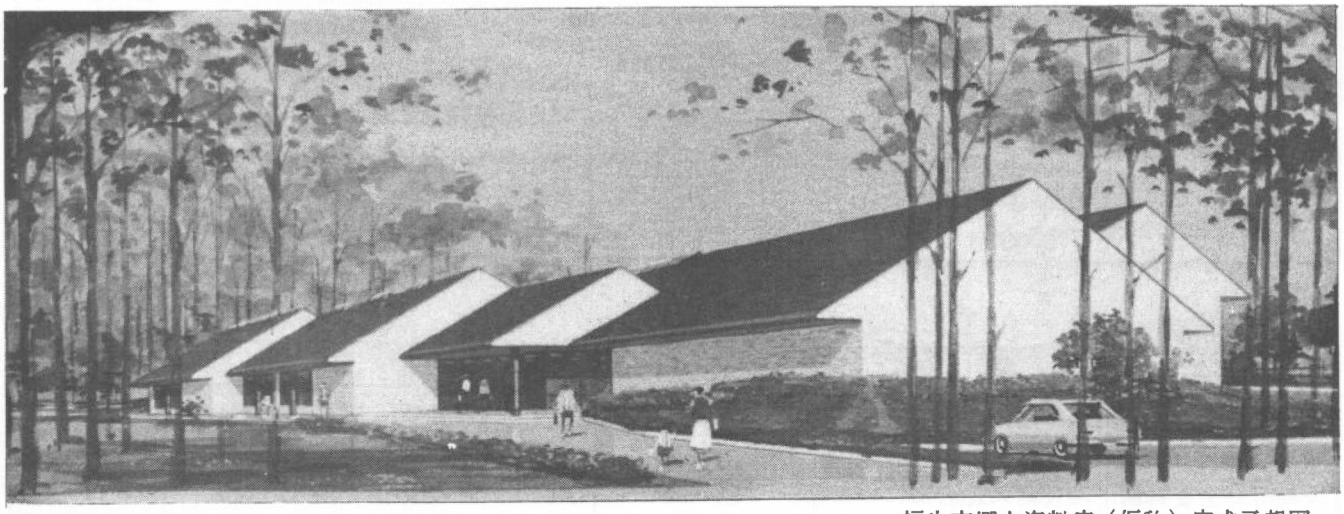
青梅市	53年1月21日に重要文化財に指定された旧宮崎家を、今年5～8月にかけて博物館わきに移築し、一般公開しています。18世紀中頃の民家です。また、都指定史跡天寧寺の山門、鐘楼などの解体復元工事を12月から着手し、56年3月31日に完成する予定です。
東村山市	天保年間（19世紀）に造られた民家（武藤家）を、北山公園に移築するため、9月に解体作業を終了し、2年後に完成の予定で準備を進めています。この民家は、53年12月15日に市有形民俗文化財に指定されています。
町田市	9月7日に鎌倉井戸を市の文化財に指定しました。

友の会及び外郭団体の活動

奥多摩郷土資料館	小河内の郷土芸能保存団体協議会を資料館内におき加盟団体として獅子会（原・川野・坂本）鹿島踊・よいさか踊・花神楽・車人形などがあり、小河内の郷土芸能の保存と伝承を目的としています。活動としては、小河内神社例祭及び各地区芸能祭へ参加しています
府中市立郷土館	府中市史談会は郷土館内に事務局をおき、月例集会で講演会・会員研究発表・古老の話を聞く会・古民謡を聞く会・史跡見学会などの活動を行なっております。現在会員数は250名で、年2回会誌を発行しています。
町田市立博物館	町田市立博物館友の会は事務局を博物館内におき、今年度活動計画として4月21日に友の会事務局長の小林昌人氏を講師として、本人の出版記念もかね、「民家巡礼二十年」と題した講演会を行ないました。4月22日には、第6回友の会総会を大地沢青少年センターで開催し、6月10日に寒川神社・藤沢遊行寺の見学会、7月29日に市内相原町の青木家見学会、8月26日に第5回博物館めぐりで山梨県立美術館・サントリー山梨ワイナリーの見学会を行ないました。また年度末までに数回の活動を予定しています。

人事消息

調布市郷土博物館	関口宣明氏9月22日長男誕生。
八王子市郷土資料館	市川幸子氏9月3日長女誕生。斉藤経生氏勤続表彰。
府中市立郷土館	人事異動5月21日付、平岩通治氏転出、松田隆夫氏転任。
町田市立博物館	人事異動3月31日付、角田誠一郎氏転出。4月1日付、中島静子氏（係長）転任。 川松康人氏7月20日長男誕生。



福生市郷土資料室（仮称）完成予想図

昭和55年4月の開館をめざして

福生市教育委員会社会教育課
宮田　満

昭和55年3月竣工、4月開館をめざして、市内牛浜駅近くの雑木林の中に図書館と併合した総床面積2949㎡ほどの施設を建設しています。

建物の概要としましては、資料室専用部分約450㎡（展示室234㎡、第1収蔵庫95㎡、第2収蔵庫28㎡、荷解室・作業室78㎡、準備室10㎡、暗室5㎡）、図書館との共用部分約339㎡（事務室115㎡、研修室〈視聴覚室〉111㎡、会議室40㎡、第1会議室36㎡、第2会議室37㎡）、その他トイレ、ホール、機械室、図書館専用部分からなっています。

この資料室施設は、地域の文化創造のための社会教育施設の一つとして、市民の地域理解に役立て、祖先の文化遺産を現代に活用するという役割をになうものとして建設されています。

福生市は、西多摩地域の玄関口、交通の要の地に位置していることから、戦後の都市開発の波を早くから受け、市民の生活様式、都市景観、それらをとりまく自然環境も、周辺地域に比らべ変貌は急でした。現在農業従事者は皆無に近く、畑地も宅地の中に点々とあるばかりです。農家の多くは、近代的な住宅に建替えられ、古民家も数軒が残っている状況です。

現在、開館準備の作業を進めているわけですが、地域に残る歴史資料、民俗資料、自然資料の全体的な量が少なく、それぞれを観る人が理解しやすいように体系的に展示しようとすることは困難であり、それをいかに補うかに苦労しています。

開館時における展示の構成は、〝福生市の成り立ちと人々の歩み〟を人文科学的な領域と自然科学的な領域とを時間的な流れとそれをとりまく空間を総合的に展示することによって、地域における福生市の位置を市民に理解していただくという計画で進めています。

多摩川によって形成された扇状地の南縁部西端の河岸段丘上に立地する本市は、独自な地理的景観や歴史的景観を備えた都市ではなく、多摩川中流域から上流域にかけての畑作地帯としての文化形態を備えておりその地域社会を館の主たる調査・研究等のフィールドとして今後活動していくことになります。

周辺市町村との充分な情報交換の中でこれらは可能となるわけですので、この点に対する理解と御協力をお願いする次第です。

博物館に来て

調布市郷土博物館
学芸員　金井安子

大学での博物館学の講義の最初の時間のことだったと思う。講義が始まる前に、博物館についてのいくつかのアンケートがあった。その中に「博物館は楽しい場所であると思う」という項があって、それに答えた学生は、たしか一人か二人ぐらいだったということが印象に残っている。残りの大部分の者が博物館に対して持っているイメージといえば、「何やら学問的で堅苦しいところ」というようなものだった。確かに、博物館は図書館ほど身近なものにはなっていない。図書館に司書がいることを知っている人であっても、博物館の学芸員のこととなると、それは何であるかと怪訝そうな顔でききかえすことが多い。現在、学芸員の職にある私とて例外ではない。小学生の頃から図書館をしばしば利用して、そこで貸出しや返却、そして読書相談などをやってくれる司書という人のことは知っていたが、学芸員の方は、考古学に興味を持ち始めた高校生になるまで、そういう言葉すら知らなかった。

おおかたの人は、博物館というと、すぐ上野の博物館を思いうかべて、自分の住んでいるところにも博物館があることには思いあたらないようである。したがって、博物館に行くということは、ある意味では一大決心が必要であり、学校帰りや買物のついでに気軽に立寄るような場所として考える人はあまりいない。博物館は日常的なものとは、かけはなれた存在になってしまっているのかもしれない。よく言われる「博物館行き」という言葉にも、日常生活とは関係のない、もはや必要とされないものという意味がこめられているように思われる。

自分自身を顧みれば、博物館は私にとっては、今まで写真や活字を通して見てきたものを実際に自分の眼で確かめることのできる場所であり、そういったことを期待して出かけていくことが多い。ただし、自分が博物館の職員となるまでは、博物館にあるものを単に陳列品として見てきたにすぎないといえるだろう。最近になって、ようやく、少しばかり「もの」を展示資料としてながめる余裕が出てきたような気がする。博物館で取扱うのは多くの場合は「もの」である。しかし、実際には「もの」を介在として、人が対象になるのだろう。だとすれば、「もの」の背後にある人や、またその見学者など、そういった人と人とのかかわりあいを大切にしなければと感じている。

【テーマ小論文】

地域博物館と郷土

八王子市郷土資料館
館長　小　泉　恵　一

三多摩地域において、博物館の振興を図るため、連絡会的なものを創設してみてはと思うようになり、何館かに打診をしてみたところ、結成の声もあって大先輩をさしおいて、昭和49年8月16日に、東京都三多摩公立博物館々長会なるものを提案し、八王子で発会した。

会の主な内容は、各館の資料の貸借と運営事業などに関連する諸問題の解決の手掛りや、学芸員同志の交流と、情報交換を含めて、加盟館を会場として輪番制で巡回し、併せて館員相互の親睦をテーマとして開催してきた。

当初は6館だったが、会の主旨に賛同して加入館も増え、現在では10館となって将来加入館があると協議会で話題となった。将来益々発展するためにも社会的に存在を認めてもらうにしても、民主的な運営をおこなうためにも、会則のなかった館長会を廃し、新たに昭和53年7月15日に、東京都三多摩公立博物館協議会と名称を改め、各館長の推せんもあって、初代会長として満足な事業も出来ずに終始し、各館の温かいご支持をいただきましたが、当方の事情もあって任期満了の日に辞任しました。

現在ではベテランの府中市立郷土館朝倉館長が会長となり、協議会の一つの事業として懸案だった機関紙も『ミュージアム多摩』と難産のすえ名前も決まり、創刊号がこの様に発行されました。

機関紙の発行は、三多摩博物館の歴史の歩みに大きな足跡を印すことが出来ました。このことは正副会長はじめ、各館より選出の編集委員の努力の賜物と心からお祝い申し上げます。

さて近頃、博物館や美術館の建設や開館のニュースを見聞するとき、その規模や構成員などうらやましく博物館に勤務するものとして誠に喜ばしいが、必ずしも満足とは言えない。

日本博物館協会での調査では、全国に1,600館となり数年前に比べると倍増して、世界各国に比肩するくらいに増え続けていると言う。しかしながら博物館としての諸条件を備えた登録館は276館と少なく、相当館198館、並びに類似館480館及び準ずる館646館という数字が、日本の博物館の実態である。つまり質的には博物館の機能を充分に満していない館が1334館と、残念ながら大量にあることになる。特に市町村立のものは近年博物館建設ブームで、文化都市の名に恥じない名目で博物館と名がついているが、単なる器だけの資料室的なものであり、学芸員の少ないところに大きな問題があると思慮される。有能な学芸員の数を揃えることによって、広範囲にわたって活動が出来るが、当然少ないと内容も浅く、学芸員の良しあしで事業などにも左右するくらい、学芸員は博物館にとって最も重要な役割と言えよう。

財政的にも大変困難な時期に入ってはいるが、広く社会教育施設の充実を考えるとき、博物館の在り方や運営事業について多方面から博物館法第3条を見直す必要があり、地域博物館の行政的な考え方や、運営の視点に立って、法の精神からも望ましい博物館活動を再考しないと、将来に大きな禍根を残すことだろう。

それには地域博物館として、郷土に密着した教育的配慮のもとに展開しなければならないが、多摩に根ずいた歴史を、時代と共に多くの年輪を積み重ね、素朴な庶民のたゆまぬ努力と、祖先の残したかけがえのない文化遺産に感動を呼び起す工夫が必要であり、学問的に系統だった裏付の中に、郷土に対する問題意識を高め、また文化を伝承していく大きな使命と教育が博物館にある。

住民に喜ばれる博物館活動は、住民の知的要求とか意識調査、館の行政配慮など他の教育機関でまねの出来ない実物教育で関心を誘い、血のかよった魅力ある博物館でありたい。そして開かれた歴史文化センターとして、学び、交わりの場とし、郷土に愛情を深めてもらいたい。博物館を、この土地に生まれた人や他から移り住んだ人にふる里の良さをおしえてくれる発見の場であり寄り処とした。

前に述べたことは、思いつくまま列記したにすぎないが、永い伝統があり確立された学校教育と違って、戦後の新しい社会教育活動が活発になった中、その一部の施設である地域の博物館は崩れやすく弱い足どりを辿って、やっと生き続けている。行政側の無理解、無関心が手伝って一般の住民はなおさらの事である。

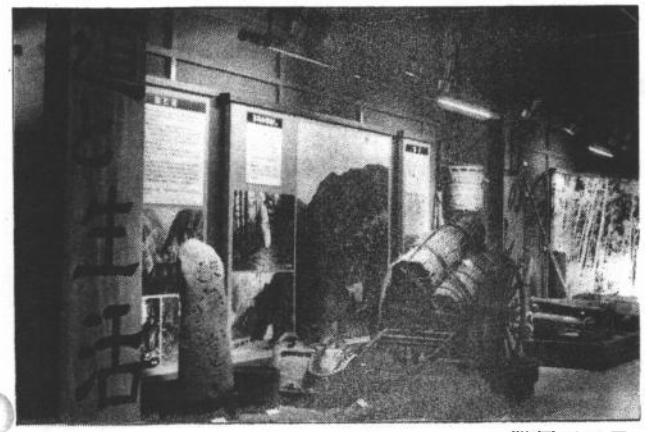
その町にふさわしい様々の条件の中で施設を整え、係る博物館を生かすも殺すも、その施設と使命観に徹した優秀な各分野の専門学芸員の質と量で決定づけられるといっても過言ではない。その道程は険しくまだまだ遠いが、大勢の方々の理解者が多く集まれば更に峠はすぐそこに見えて近い気がする。

恵まれた博物館は別にして、地域にある地方公共団体が経営し、これから造ろうとしている機関に望ましい学芸員の人員と人件費の補助、学校施設と同じようなシステムや手法で、国や都の大幅な補助金を支弁する方法が最も適切な特効薬になるだろう。

終りに、三多摩地方共通の文化活動圏に番組を作って、特別展を企画し、地域が大きければ地区に分けて数館が予算や企画を分担し合って、期間を定めて巡回展をおこなう方式を考えている。その効果は単なる経済性にあるが、地域に展観距離を近づけるメリットがあり、大変むずかしいと思うが実現したい。

【紹介コーナー】

博物館紹介　奥多摩郷土資料館



2階展示風景

青梅線奥多摩駅から、多摩川の深く刻まれた渓谷にそってバスにゆられ、水の滴り落ちる隧道を幾つか抜けること20分――東京のオアシス、奥多摩湖である。

この湖は、昭和32年11月、都民の飲料水確保のために、旧小河内村の全村と山梨県丹波山村、小菅村の一部を湖底に沈めてできた人造湖で、今は奥多摩観光の拠点となり、新緑、お花見、紅葉狩りと四季を通じて都民の行楽地として賑いを見せている。

この度訪ずれたのは、長雨の続く10月。秋雨に煙る湖は、雄大な全容を見せてくれなかった――ふと、石川達三の一編『日陰の村』が想い起こされ、ダム建設に莚旗を立てて抗議する村人の姿が頭をよぎる……。

〝夕日は赤し、身は悲し　なみだは熱くほほぬらす　さらば湖底のわが村よ〟(島田磐也詞)

この歌は、湖底に沈んだ小河内村をあとに、各地に離散していった村民の惜別が唄われたものである。

奥多摩の地に永々として営まれてきた村人の生活は消失したが、幸い水没前に文化財総合調査が実施され生活の記録と多数の民俗資料等が収集保存された。

そして現在、これらの資料は、昭和53年4月にダムサイドに開館した郷土資料館に展示されて、小河内の山村生活を今日に語り伝えてくれる。(T記者)

《奥多摩郷土資料館》　西多摩郡奥多摩町原5
電話　(04288)6―2731

休館日　火曜日　年末年始　展示替期間
開館時間　4月～11月は10時～17時
12月～3月は10時～16時
入館料　一般200円　小中学生100円
展示内容　山村の生活用具　小河内の郷土芸能等
交通案内　国鉄青梅線奥多摩駅前より小河内方面行バス→水根または小河内ダム下車

※駐車場完備、郷土物産即売所と軽食堂を併設。

職員紹介　遠藤　吉次さん
(府中市立郷土館)

博物館活動の出発は、博物館職員の「物」との接触に始まる。「物」の懐にとびこみ、そいつの内に秘めた価値を引き出したり、磨いて玉にしたりするには、「物」との不断のつきあいが肝心だ。民具と付きあう人、土器と付きあう人、いろんな職員がいる。

ここに紹介する遠藤学芸員は、昭和43年以来、古文書を相手に飽くことなき恋路を歩んできた人物です。

苦雪10年とか、今や府中市周辺における地方史研究では確固たる実績をもつ。当府中市立郷土館の人文分野での活動の主軸をなし、展示に出版に、また史談会の運営にとその研究成果をいかんなく発揮して、暗中模索の小館を今日に至らしめた逸材である。

「物」とひたむきに対座する姿が、今日も事務室に見られる――昭和19年谷保の産。爾来35年同地に住す。(Y記)

新収蔵資料紹介　町田市立博物館蔵

大津絵

大津絵前期・鬼三味線

大津絵は、大津追分と京都のほぼ中間にあたる街道筋の町、大谷界隈で売られていたみやげ絵で、その付近の地名「大津」をとり大津絵と称されたもので大津絵という名称が一般化する以前は、追分絵、大谷絵、山科絵と呼ばれていた。大津絵の開始期は寛文頃とされ、仏画であった。それが風俗画、戯画、花鳥画等の世俗画的様相を見せたのは承応元年頃からである。画題が鬼の念仏、藤娘、雷公、瓢箪鯰、座頭、槍持奴、鷹匠、弁慶、矢の根、長頭の10種に限定して売られるようになったのは文化元年頃からである。(河)

東京都三多摩公立博物館協議会々則

（名　称）

第１条　本会は、東京都三多摩公立博物館協議会と称する。

（組　織）

第２条　本会は、東京都三多摩地区に所在する、公立の博物館関係者をもって組織する。

（事務所）

第３条　本会の事務所は、会長が所属する博物館におき、協議会に係る事務をおこなう。

（目　的）

第４条　本会は、各博物館相互の連絡協調を図り、博物館事業の振興に寄与することを目的とする。

２　各館の情報交換と親睦を図る。

３　各館に保存管理している歴史文化資料相互の貸し出し、及び行政地区内の資料の紹介等をおこなう。

４　その他博物館活動に必要な事業をおこなう。

（役員構成）

第５条　本会は、円滑な運営をおこなうために、次の役員をおく。

(1)会長　１名　(2)副会長　１名　(3)理事　若干名

(4)会計（会長が所属する博物館の職員）　１名

(5)監査　１名

（役員の選出）

第６条　役員は、本会を構成する博物館の館長の中から、互選により会長、副会長、理事をそれぞれ選出する。

（会長等の職務）

第７条　会長は、本会を代表して会務を総理し、副会長は会長を補佐する。

会長事故あるときは、副会長はその職務を代行する。

（代理参加）

第８条　協議会は、第５条の役員をもって開催し、役員に事故があったときは、役員の所属している博物館職員が代理として出席する。

（役員の任期）

第９条　役員の任期は１年とし、再任を妨げない。

なお、人事異動があった場合には、新任館長がその職務をおこない、残任期間を務める。

（会議の種別）

第10条　本会の会議は、総会、臨時総会、協議会とする。

２　総会は、役員及び各館の関係者でおこなう。定期総会は毎年１回、臨時総会は会長が必要と認めたとき開催する。

３　総会及び協議会は、会長が招集する。

４　協議会は、原則として隔月とし、会場は加盟した博物館を輪番制によって巡回し、開催する。

（運営費）

第11条　本会の活動に要する経費については、別に定める。

（活動年度）

第12条　本会の活動年度は、毎年４月１日に始まり、翌年の３月31日に終了する。

付　　則

本会の会則は、昭和53年５月10日から施行する。

東京都三多摩公立博物館協議会経費に関する規程

（経　費）

第１条　東京都三多摩公立博物館協議会の活動に要する経費は、次の収入をもってあてる。

(1)各博物館で販売する「東京の博物館」の収益金

(2)寄付金

(3)その他の収入

（会計年度）

第２条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終了する。

付　　則

この規程は、昭和53年５月10日から施行する。

編集後記

創刊号を発行するにあたりまして、各館より多大なご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。無の状態から８回の編集会議をへて、ようやく完成することができました。この間、台風20号の影響で停電になり仕事ができなくなったり、機関紙名を決定するのに館長会議で同点決戦にもつれこんだり、いろいろなことがございました。２号・３号とよりよい『ミュージアム多摩』を目指して行く所存であります。(Ka)

発行：東京都三多摩公立博物館協議会
〒183 府中市宮町３－１
府中市立郷土館内
☎ (0423)64－4111　内線2036
編集委員：川松康入　近藤晏仲
佐藤　広　横尾友一
印　　刷：山二印刷　府中市浅間町3－14